

行動と心理

科目責任者 野 畑 友 恵

学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

本講義では、人の行動の仕組みについて学ぶ。人は主観的に情報を捉えており、同じ状況でも異なる行動をとる。したがって、人は互いに察することは難しく、コミュニケーションによって情報を共有することが必要となる。そこで、人はどのようにして世界をとらえ行動するのかそのしくみを学び、多様な価値観が生まれる理由を理解する。そして、人間関係を形成するしくみ学び、相互作用を通して情報を共有し合うコミュニケーションのあり方を理解する。またこれらを通して、他者を尊重する態度を身に着ける。

II. 担当教員

野 畑 友 恵（基盤教育部門）

III. 一般学習目標

人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を理解する。

IV. 学修の到達目標

1. 人が環境からの刺激をどのように処理し行動するのかを説明できる。
2. 生涯発達における各段階の課題を説明できる。
3. 個人の違いを理解する観点を説明できる。
4. 他者や集団が個人の行動に及ぼす影響について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション, デイバート 3：グループワーク 4：実習, フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	19	火	1	行動のしくみ	野 畑 友 恵	1
2		19	火	2	心の働き①		1
3		26	火	1	心の働き②		1
4		26	火	2	脳の働き		1
5	5	6	金	1	行動の学習①		1
6		6	金	4	行動の学習②		1
7		10	火	1	動機付け		1
8		10	火	2	ストレス		1
9		17	火	1	発達①：生涯発達, 胎児期		1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
10	5	17	火	2	発達②：乳児期	野 畑 友 恵	1
11		24	火	1	発達③：幼児期		1
12		24	火	2	発達④：児童期，思春期，青年期		1
13		31	火	1	発達⑤：成人期，中年期，老年期		1
14		31	火	2	個人差①：個人差の要因		1
15	6	7	火	1	個人差②：パーソナリティ，知能		1
16		7	火	2	個人差③：ジェンダー		1
17		14	火	1	対人関係に関わる行動①		1
18		14	火	2	対人関係に関わる行動②		1
19		21	火	1	集団の中での行動①		1
20		21	火	2	集団の中での行動②	1	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

事前学習（10%），事後学習（10%），ミニレポート（20%），期末試験（60%）で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

[教科書]

使用しない。

[参考図書]

授業内で随時紹介する。

VIII. 質問への対応方法

質問は，授業の前後，研究室への来室，またはメールで受け付ける。

研究室への来室は，事前にメールで連絡することが望ましい。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習は、授業中に解説する。

事後学習は、解答と解説をLMSに掲載する。

ミニレポートは、解説をLMSに掲載する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：資料をよみ、授業の概要と問いを確認する（所要時間の目安：10分）

事後学習：授業内容に関する確認テストに解答する（所要時間の目安：10分）、行動目標に関連するテーマについてミニレポート（4回）をまとめる（所要時間の目安：20分）LMS掲載の学習教材を活用し理解を深める（所要時間の目安：15分）

XII. コアカリ記号・番号

C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-6, C-5-7, C-5-8